

小学校児童保護者を対象とした津波防災意識調査 — 白浜町西富田小学校での調査 —
 Questionnaire Research on Disaster Prevention Consciousness of Tsunami Targeted at the Children's
 Parents of Nishi-Tonda Primary School in Shirahama Town

○馬場康之*小田裕矢*石垣泰輔*戸田圭一

○Yasuyuki BABA*Yuya ODA*Taisuke ISHIGAKI*Keiichi TODA

This report shows the questionnaire research on disaster prevention consciousness of tsunami targeted at the children's parents of Nishi-Tonda primary school in Shirahama town, Wakayama prefecture. The questionnaire survey was conducted on November 2017, and the questionnaire results were analyzed. The collection rate of the questionnaire is 82.2% (the number of valid responses: 211). Based on the questionnaire results, the main results are as follows; 1) There is a high interest regarding in "tsunami" and danger due to tsunami, 2) Many respondents believe tsunami will attack their residence areas after big earthquake will happen, 3) Some respondents living at relatively high altitudes tend to underestimate the possibility of tsunami attack to their resident areas. 4) The questionnaire results show a margin for choice is left regarding "Place to evacuate" and "Means to evacuate".

1. はじめに

本報告では、和歌山県白浜町の西富田小学校において2017年11月に実施した、保護者を対象とした津波防災意識調査の結果を報告する。白浜町立西富田小学校は白浜町内の堅田と才野の2つの区を校区としている。小学校の近くを流れる安久川（流路延長 3.5km）沿いに津波浸水域が想定されている。校区内の別の地域にも津波による浸水域が想定されているが、小学校自体は高台にあり、初期避難場所の一つに指定されている。著者らは、2015年度より小学校3年生の生徒を対象とした防災教育を実施しており、今回初めて全学年の保護者を対象とした津波防災意識調査を実施した。

居住地区についてはばらつきが大きいものの、後半のクロス集計の際にはアンケートの回答数が20名以上の4地区を対象とした。

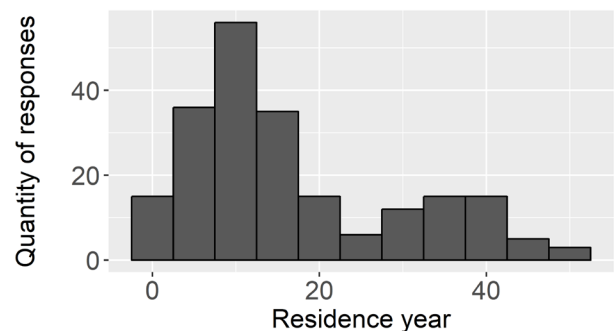


図1 居住年数に関する回答 (5年ごとの回答数)

2. アンケート結果の概要

アンケートは、西富田小学校の全学年を対象とし、各家庭向けに小学校を通じてアンケートの配布、回収を行った。アンケートは全部で26の設問があり、地震発生時の避難行動や南海・東南海地震に伴う津波に関する設問、および地域の避難場所や情報収集の方法、防災対策に関する設問から構成されている。

アンケートの配布数は全学年で269であり、回収した数は221（回収率 82.2%）であった。設問には白浜町内での居住年数と居住地区に関する設問があり、図1、図2に示すように居住年数は20年付近を境に二山の分布をしていることがわかる。

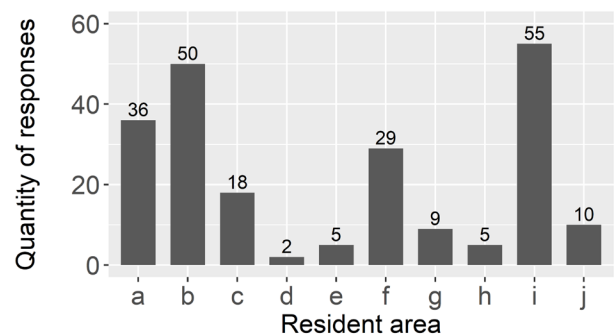


図2 居住地区別のアンケート回収数

以下では、主な設問に対する単純集計の結果について示す。

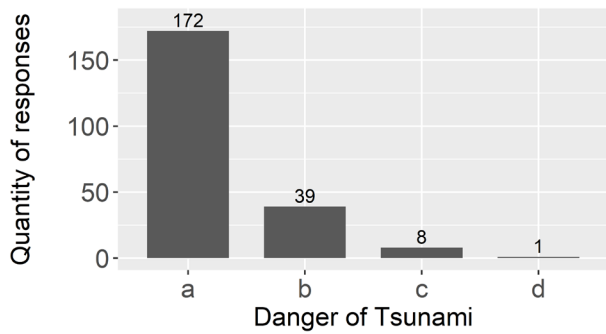


図3 「津波に対して身の危険を感じるか」への回答数(a.強く感じる, b.少し感じる, c.どちらともいえない, d.あまり感じない, e.まったく感じない, f.わからない)

図3は「津波に対して身の危険を感じるか(有効回答数 220)」という設問に対する回答である。この設問に関する回答では、eとfに対する回答はゼロであり、aの回答のみで80%、bを含めると90%以上の回答を占めている。「津波を意識しているか」という別の設問でも同様の結果が得られており、総じて津波に対する意識は高いと思われる。

図4は「南海・東南海地震が発生した場合の居住地区へ津波が来襲する可能性(有効回答数 219)」に関する設問に対する回答である。

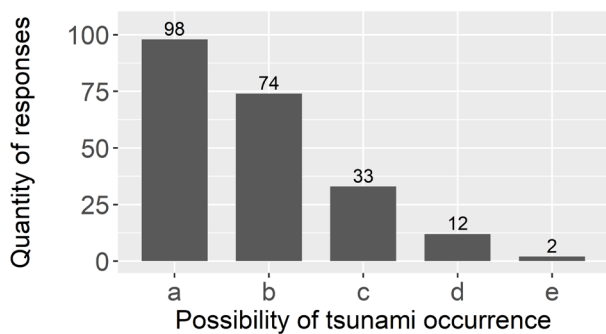


図4 「南海・東南海地震が発生した場合の居住地区へ津波が来襲する可能性」への回答(a.来ることを知っている, b.おそらく来ると思う, c.あまり来るとは思わない, d.まったく来るとは思わない, e.わからない)

この設問への回答でも、aおよびbの回答が多数を占めるが、cの回答が15%見られる。dのまったく来るとは思わないという回答も5%ほど見られるが、わからないという回答がほとんど無いことを考え合わせると、何か根拠を持った回答ではないかと考えられる。図5は、図4に示した設問と回答数が20以上の居住地区との関係を示したものである。図5に示すように「津波来襲の可能性」に関する設問について、居住地区別に差の出る結果となった。「津波来襲の可能性」についてcあま

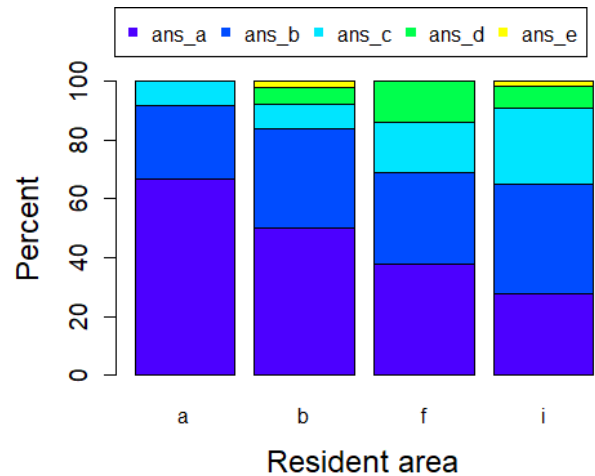


図5 「南海・東南海地震が発生した場合の居住地区へ津波が来襲する可能性」への回答の地区別比較(回答数20以上の4地区を対象)

り来るとは思わない、dまったく来るとは思わないという回答が多い地区fとiは標高の高いエリアを含む地区であることが関係しているのではないかと考えられる。

図6は「最寄りの避難場所までの所要時間(有効回答数 219)」に関する設問への回答である。

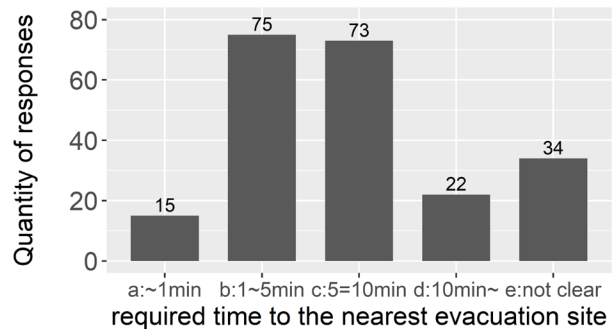


図6 「最寄りの避難場所までの所要時間」への回答

1~5分、5~10分と回答した数がともに30%程度を占めているが、eわからないという回答も約15%を占める。別の設問で避難場所の認知を尋ねたところ、30%が知らないと答えたことが一因と思われる。また、避難タイミングや手段に関する単一回答の設問において複数の選択肢を選んだ回答が少なかったことや、避難する場所や手段に関して「場合による」、「そのときに居る場所による」など単純には決めきれないことを示唆するコメントがあったことから、「実際の状況がわからない」という意味合いを持った回答も含まれていると思われる。